

地域おこし協力隊通信

農業公社班

「初の田植えを経て」

梅木 琴未

私がこれまで経験したことのある田植えといえば、実家の田んぼで、植えてくれている親戚に背を向けて、延々苗箱を洗っている。そんなものでした。

今年初めて荒がきと代かき、田植えまでをさせていただきました。トラクター、田植え機の機械操作をさせてもらえて、とても楽しかったです。

昨年が入隊が7月終わりと中途半端だったため、これで田んぼのことを一通り経験できたと思います。これをどう上達させるか、どう活用させるか、そういうことも考えながら過ごしていきたいと思います。

「4月から6月までの振り返り」

藤井 聖子

田植えシーズンは、夢の中でも田植えや代かきをするくらい作業に没頭していました。田植えが終わると、公社田の草刈り、朝夕の水見、除草剤散布のための雑草の確認、それからほんのときたまテール（手で雑草を取る）もしています。

梨栽培については、13aの土地に植えた180本の新甘泉はほぼ順調に成長していますが、かん水作業に苦戦しています。井手水を汲みあげ、全ての水をあげるために、みんなでホースを外してはつけ、水浸しになった日も何度か：試行錯誤しています。

オペレーター作業



▲代かき（田植え前に、ほ場を整えます）



▲大山を背景に田植え



▲牧草の反転作業などもしています

梨作業



▲イノシシ対策のため電柵を張ります



▲農家さんより麦わらを頂き、結束しています



▲芽の剪定をする。手のひらを広げた間隔で芽を残す



▲雑草と乾燥対策のため結束したわらを農地に運び、苗木の周りに敷いています



▲防除（若い葉を傷めないよう、早朝の気温が高くない時間に薬剤の散布を行います）

この他には、草刈り、芽かき（余分な芽を取る）、1日2回のかん水（今の時期に水をたくさんやり、細かい根を出させる）など。7月からは、新しく伸びた芽を誘引します。